

授業科目名	心 理 学	担当教員	北 川 公 路
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	心理学をこれから学ぼうと考えている人のなかには先入観をもっている人が多いと思われる。それはマスコミなどで取りあげられることの多い深層心理やカウンセリングの問題である。そのため心理学ではそれだけを扱うものであるという誤解が生まれやすい。臨床心理の問題も、心理学の中で重要な問題領域であるが、心理学が扱う問題は、それだけではないということを知り、心理学全般をおさえつつ、医療人にとって最低限必要な知識を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の主たる目的は人間の行動予測と制御にあるといわれている。その行動の予測と制御を行うために必要な知識を習得すること。 人間の行動とは、日常の行動だけでなく、ひとの発言、態度や表情など目にみえる行動すべてを客観的対象として捉え、科学的、実証的な方法によってこころのメカニズムや原理、法則を明らかにする学問であることを学習すること。 医療職種固有の医療的介入と同様、心理学という専門領域がとる心理学的介入について学習すること。
関 連 科 目	臨床心理学 発達心理学 カウンセリング 老年心理学
成 績 評 価 方 法	定期試験・レポート課題・出席点の総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	医療と心理学	心理学とは何か 医療と心理学、心理学の関連領域	-2.臨床心理学 A 基礎理論 b 防衛機制と転移
2	心理学の諸理論	心理学の起源、精神分析理論	
3	学習	行動理論、認知理論 条件づけ 認知学習	-2.臨床心理学 A 基礎理論 C 学習・記憶・行動
4	記憶	短期記憶と長期記憶 記憶障害	-2.臨床心理学 A 基礎理論 C 学習・記憶・行動
5	感覚と知覚	五感のはたらき	
6	情動	情動 感情の機能	
7	動機づけ	動機づけ 動機づけの種類	
8	社会心理学	社会的認知 人間関係	
9	ストレス	ストレスとは何か ストレスの心理生物学的影響	
10	パーソナリティと自己理解	パーソナリティの諸理論 パーソナリティの形成 性格検査	-2.臨床心理学 C 臨床心理検査法
11	知能	知能、知能検査 知能の発達と障害	-2.臨床心理学 C 臨床心理検査法
12	こころの発達	発達諸理論	-2.臨床心理学 B 正常および異常心理 a 児童・青年期心理
13		親子関係の発達、生涯発達心理学	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
14 15	臨床心理学と心理療法	臨床心理学 心理療法 カウンセリング	b 成人・高齢者心理 c 障害者心理 -2.臨床心理学 A 基礎理論 a 歴史 D 心理療法およびカウンセリング
教科書	「シリーズ医療の行動科学 医療行動科学のための ミニマム・サイコロジー」山田富美雄（北大路書房）		
参考書	講義時に案内		

授業科目名	教 育 学	担当教員	横 井 利 男
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護や医療は、ある面では教育的でなければならない。そういった意味で本学学生は皆、教育する立場になるという意識が必要である。 人格を形成し、環境に適応し、環境を改善して自分や他者がよりよく生活できるようにするための学習という活動と、それに対する価値志向的働きかけである教育についての基本的事項を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論）を理解し、教育の目的等に沿って広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができる。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができる。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング 看護学 小児看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	教育	青少年の問題行動 原因：個の資質・家庭・学校・社会・法律	
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」	
3	学と習 (動機付け)	学ぶことの面白さ、 「覚える」と「分かる」 動機づけ(外的・内的)	
4			
5	学校教育 学校教育の効果	オオカミに育てられたアマラとカマラ 事例研究1	
6	教育内容	量の教育から質の教育へ 知識から学び方へ 教育課程	
7	教育制度	現行の教育制度 教育制度の変遷	
8	ゆれる教育改革	「生きる力」と「問題解決の能力」 総合的な学習の時間	
9	人権の教育	模擬授業：「総合的な学習の時間：人権の教育」	
10	心の教育 道徳教育	宗教的心情の教育 道徳教育と宗教教育	
11	教育関係法制度	教育勅語～教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係	
12	発達と教育	教育の形態と学習者としてのヒトの「発達」 胎児期・乳児期・児童期・青年前	
13	学校不適応	学校不適応・いじめ・引きこもり 事例研究2	
14	特別支援教育	ノーマライゼーション	
15	定期試験		

教 科 書	プリントによる
参 考 書	なし

授業科目名	生命科学	担当教員	澤田 只夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	パワーポイント/ビデオ、適時配布するプリント資料
科目の目的	ヒトを含む生物の生命現象を、人間が多様な生物と釣り合いながら、共生していくために広い視野に立ち、科学的、論理的思考力を育て、自由で主体的な判断と行動ができるように、また、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解していくことができるように、科学的思考の基盤や人間生活へのかかわりを学ぶ。そして、これから学んでいく多くの看護学・理学療法学専門科目の基盤となるよう、医療の対象である「人間」をより深く理解することをねらいとする。最新の情報を交えながら、生命に対する感動を共有したい。
学習到達目標	人間も生物の1種であり、その生命維持のしくみを他の生物と比較しながら、「人間」とその環境とのかかわりを深く理解し、他の生物とどれくらい共通点があり、どんな関わりをもって暮らしているのかを理解できるようになることである。
関連科目	解剖学 生理学 生化学 栄養学 微生物学
成績評価方法	中間・学期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)などにより評価。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	生命の起源	生命誕生の準備(化学進化) 原始生命の誕生 生命を支える分子	
2	生命の単位	細胞の構造と機能	
3		生体の構造と機能	
4			
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸	
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成	
7	生命をつなぐ遺伝情報	メンデルの法則	
8		遺伝子の本体 DNAの働き ヒトの遺伝	
9		遺伝と環境 * <u>Midterm Exam</u> *	
10		発生・分化	
11	発生過程		
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ	
13		性の分化とホルモン	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化 ヒトと地球環境	
15	生物と地球環境	環境汚染化学物質 環境保全 * <u>Final Exam</u> *	

教科書	「人の生命科学」渡辺強三、佐々木史江、堀口 毅 著（医歯薬出版（株））
参考書	「生命の意味」桑村哲生 著（裳華房）

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	担 当 教 員	村 上 隆 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握し、実践の場面での適切な行為を可能にする指針を得るとともに、さらにこれらの倫理的な諸問題の背景となっている哲学的・宗教的なことらについての基礎的な理解を得るようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1、現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2、実践の場面で倫理的な諸問題に関して適切に行う指針を獲得する。 3、西欧の医学・医療における哲学的・宗教的な背景について概観を持つ。
関 連 科 目	看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 生命科学 医療民俗学 法学
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席率等の平常点を加算する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命倫理導入	生命倫理学の形成の歴史的背景	
	生命と身体(1)	伝統的宗教における生命と身体	
2	生命と身体(2)	古代哲学における生命と身体	
3	生命と身体(3)	近代哲学における生命と身体	
4	死の問題(1)	伝統的な社会における死	
5	死の問題(2)	近代社会における死	
6	人間の身体	疎外される身体と加工される身体	
7	身体と所有	近代的所有権と身体	
8	人権と医療(1)	脳死と臓器移植	
9	人権と医療(2)	インフォームドコンセント	
10	誕生と倫理	妊娠中絶と新生児殺し	
11	死と倫理	終末期医療と安楽死・尊厳死	
12	生殖と倫理	生殖技術と倫理	
13	医療関係倫理	医療関係者－患者間の倫理	
14	医療と正義	医療資源の配分の倫理	
15	動物の生存権	生命倫理と環境倫理	

教 科 書	プリントによる。
参 考 書	講義の展開のなかで適宜指示する。

授業科目名	スポーツ科学	担当教員	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	オリエンテーションは、学内で 2 コマ行う。スポーツ科学 は、高山村北毛青年の家において、スポーツ科学 は、AMF 高崎パークレーンにてそれぞれ行う予定である。
科目の目的	「生活習慣病」の原因は、偏った食生活と運動不足によるものとされている。人間の多くの作業や動作を、機械が代行する現代社会では、運動不足は、必然の結果と言えよう。そこで、人間と運動との関係を今一度考え、現実に即した理想的なスポーツスタイルとは何かについて学んでみる。
学習到達目標	レジャースポーツとして、国民的支持を受けている「ボウリング」の歴史は、紀元前にまで遡る。ボウリングは、スポーツとしていったいどれほどの健康的な効果があるのだろうか。都市型における生活スタイルに即した理想的なスポーツスタイルとしてのボウリングの魅力を明らかにしてみよう。
関連科目	運動生理学 スポーツ科学実習
成績評価方法	出席 (15 点) および試験 (85 点) にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	教室 (講義)	-2. 生理学 M. 運動生理学 運動における生体の生理学的変化
2	スポーツ科学	アウトドアスポーツ「北毛青年の家 (集中講義)」	
3		アウトドアスポーツ「北毛青年の家 (集中講義)」 内容「未定」	
4	スポーツ科学	オリエンテーション 教室 (講義)」	
5	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)	
6	ウォーキング		
7	ボウリング		
8	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)	
9	ボウリング		
10	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)	
11	ボウリング		
12	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)	
13	ボウリング		
14	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)	
15	試験		

教科書	ボウリングのレッスン料として実費を負担します。テキスト「ボウリングと健康の科学」も含まれます。
参考書	特にありません。

授業科目名	スポーツ科学実習	担当教員	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	講義としてのオリエンテーションは、学内で2コマ行う。集中講義としてのスポーツ科学実習は、「ぐんま県民マラソン大会」にて、同様に、スポーツ科学実習は、新潟県湯沢町の苗場(Naeba)スキー場にてそれぞれ行う予定である。
科目の目的	スポーツおよび は、自然とふれあうさまざまな場面における健康管理とその予防、傷害の管理予防およびコンディショニングを適切に処理および指導できる力量形成を養うことを目的とする。
学習到達目標	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのため、ぐんま県民マラソンの4kmのジョギング参加を目標にして、そのためのコンディショニングづくりを行う。スノースポーツ(スキー・スノーボード)を愛する人々が共有する「自然とのふれあい」「人とのふれあい」を通じてそれぞれの体力、技術およびスタイルに応じた楽しみ方を体験する。
関連科目	スポーツ科学 運動生理学
成績評価方法	スポーツ実習 および の出席(100点)にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	スポーツ実習	
2	スポーツ実習	オリエンテーション	
3	例年11/3実施	「ぐんま県民マラソン大会」参加	
4		4Km・10Km・ハーフ(20Km)の3種目のうち、1種目	
5		を選択し、そのための練習を行う。	
6		個人トレーニング	
7			
8	スポーツ実習	スポーツ実習	
9	1泊2日予定	オリエンテーション	
10		「スキー・スノーボード」合宿を予定(初心者レッスン含む)	
11	2月上旬定期試験終了後実施予定	1泊2日予定	
12			
13			
14			
15			

教科書	「ぐんま県民マラソン」参加費(¥2000)、「スキー・スノーボード」合宿は、交通費、宿泊、リフト代。用具等すべて自己負担(¥20000前後)となります(日程および詳細は、履修者決定後別途連絡します)。
参考書	

授業科目名	総合英語	担当教員	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	前期は基本的なものを、後期はやや難しめのテキストに沿って進める。
科目の目的	将来の高度な専門分野の英語に取り組めるような2つの基礎作りを目的とする。 ・今までに習った基礎事項を確認しながら、4つの技能(読む、聞く、話す、書く)をまんべんなく練習し、総合的な英語力をつける。 ・専門分野に関する基本的な英語の語彙力をつける。
学習到達目標	1年を通じて4つの技能をバランスよく習得することは言うまでもないが、履修者各人の苦手な技能に積極的にチャレンジして improve してほしい。 1年を通じて専門分野関連の基本的単語をおぼえること。 後期には4技能を磨きながら、人間の生命、生活、健康についての見方を広げてほしい。
関連科目	
成績評価方法	出席状況、授業への参加度、平常試験、期末試験(前期、後期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	Lesson 1	“ Our Aging Population ” を読んで practice する。	
3	Lesson 2	“ The Golden Plan ” を読んで practice する。	
4	Lesson 3	“ A Lesson in Caring ” を読んで practice する。	
5	Lesson 4	“ Emotional Well-being ” を読んで practice する。	
6	Lesson 5	“ Danger Signs ” を読んで practice する。	
7	Lesson 6	“ For Children Only ” を読んで practice する。	
8	Review	Lesson 1 から Lesson 6 の復習	
9	Lesson 7	“ The Power of Music ” を読んで practice する。	
10	Lesson 8	“ Multicultural Care ” を読んで practice する。	
11	Lesson 9	“ Assisted Living ” を読んで practice する。	
12	Lesson 10	“ Bedside Manner ” を読んで practice する。	
13	Lesson 11	“ Euthanasia ” を読んで practice する。	
14	Lesson 12	“ You are never too old ” を読んで practice する。 Lesson 7 から Lesson 12 の復習	
15	Examination	前期末試験	
16	Chapter 1	「スポーツで健康な暮らし」を読んで practice する。	
17	Chapter 2	「栄養は健康の鍵」を読んで practice する。	
18	Chapter 3	「現代はストレス時代」を読んで practice する。	
19	Chapter 4	「エイズ撲滅」を読んで practice する。	
20	Chapter 5	「間接喫煙は有害」を読んで practice する。	
21	Chapter 6	「親になるのは怖い」を読んで practice する。	
22	Chapter 7	「病気の子供達」を読んで practice する。	
23	Chapter 8	「在宅看護」を読んで practice する。	
24	Chapter 11	「病院の発達」を読んで practice する。	
25	Chapter 12	「近代看護の創設者、ナイチンゲール」を読んで practice する。	
26	Chapter 13	「看護師は患者の代弁者」を読んで practice する。	
27	Chapter 14	「老人ホームの老人達」を読んで practice する。	
28	Chapter 15	「コミュニケーションは良い人間関係から」を読んで practice する。	
29	Chapter 18	「リハビリで健康を」を読んで practice する。	
30	Examination	後期末試験	

教科書	前期 「English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語」 Marilyn W. Edmunds 他 著(南雲堂) 後期 「Life and Health Care 総合英語:健康と医療」 渡邊容子 他 著(三修社)
参考書	英和辞書

授業科目名	英語表現	担当教員	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って、ロールプレイなどへの履修者の積極的参加と共に進める。
科目の目的	将来、様々な医療の現場で遭遇するであろう、英語を使ってコミュニケーションをとらなければならない場面に備えて、専門分野の現場での基礎的な英語表現を身につけることを目的とする。
学習到達目標	医療の現場に必要な基礎的な英語の語彙、表現を覚えること。 覚えた語彙、表現がスムーズに口から出てくること。
関連科目	
成績評価方法	出席状況・授業への参加度・平常試験・期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	(Basic)のUnit 1	自己紹介の仕方	
3	(Unit 1), Unit 2	各自の自己紹介、あいさつ	
4	Unit 3, 4	人を紹介する、場所や方向を教える	
5	Unit 5, 6	患者の様子を聞く、診察や治療に必要な表現	
6	Review	復習	
7	Unit 7, 8	相手に確認(1)(2)	
8	Unit 9, 10	相手に確認(3) 行為を促す言葉	
9	Review	復習	
10	Unit 11, 12	指示、依頼の表現(1)(2)	
11	Unit 13, 14	指示、依頼の表現(3) 食べ物に関する表現	
12	Unit 15, 16	薬に関する表現、患者の要望に答える表現	
13	Review	復習	
14	Unit 17, 18	患者の質問に答える表現、窓口での言い方(1)	
15	Unit 19, 20	窓口での言い方(2)(3)	
16	Review	復習	
17	(20 Health)のUnit 1, 2	電話予約、受診手続きの表現	
18	Unit 3, 4	診察の順番待ち、再診の表現	
19	Unit 5, 6	入院の指示、手続きの表現	
20	Unit 7, 8	患者に質問、お風呂の許可の表現	
21	Unit 9, 10	薬の指示、検査の指示の表現	
22	Review	復習	
23	Unit 11, 12	内科、外科に関する表現	
24	Unit 13, 14	小児科、歯科に関する表現	
25	Review	復習	
26	Unit 15, 16	眼科、耳鼻咽喉科に関する表現	
27	Unit 17, 18	産婦人科、整形外科に関する表現	
28	Unit 19, 20	皮膚科、泌尿器科に関する表現	
29	Review	復習	
30	Examination	期末試験	

教科書	「Basic English for Medical Care メディカル英語の基礎」 古閑博美 著 (弓プレス) 「20 Health-care Dialogs」 古閑博美、垂石幸与 著 (弓プレス)
参考書	英和辞書

授業科目名	音楽学	担当教員	峰岸小織
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	音楽療法の普及などにより、音楽の治療効果は科学的にも証明されつつあるが、音楽は病気の治療のみならず、健康な人の精神にも大きな影響を与える。この講義では、音楽作品を歴史的背景、作曲家のエピソード等、多くの観点から学び、作品を深く理解し、身近に親しむための関心を引き出していく。それにより、生涯にわたり豊かな感受性、知性、教養を磨き、社会に貢献してゆきたいという熱意を導く。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は得意・不得意ではなく、いつも人と共にあり、心の表現手段の一つであり、又、人と人とのコミュニケーションの道具にもなることを認識する。 ・音楽に感動する喜びを体験する。 ・現代人の生活に氾濫している種々雑多な音に注意を向け、健全な音楽観を持ち、職場や家庭において進んでその音楽環境を整え得る感覚を持つ。
関連科目	教養科目 理学 老年心理学 教育学 生活学 家族学 地域社会学 国際関係論 専門基礎科目 達心理学 精神医学 老年医学 カウンセリング レクリエーション論 専門科目 療法概論 健康増進・スポーツコンディショニング論 日常生活活動学 生活環境学
成績評価方法	レポート、授業後の提出物(感想文)、授業に取り組む姿勢等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	音楽の起源	原始社会の中で音楽はどのように生まれたのか。	
2	音楽の発達	文明の発達と共に音楽はどのように発達していったか。楽譜(記譜法)の発達 等	
3	音楽の基礎知識	音楽を構成する三要素(リズム、メロディ、ハーモニー) 様々な楽譜の読み方 等	
4	音楽療法とは何か		
5	音楽療法の実際1	現代社会における音楽療法	
6	音楽療法の実際2	心の病気と音楽療法 高齢者と音楽療法	
7	音楽療法の実際3	子供と音楽療法	
8	音楽療法の実際4	健康な生活と音楽、現代人を取り巻く音楽環境 医療施設での音楽環境	
9	イタリアの音楽	バロック音楽からオペラまで、音楽療法で使われる音楽を中心に学ぶ。	
10	オーストリアの音楽	モーツァルト、シューベルト他オーストリアの作曲家達の音楽	
11	ドイツの音楽	バッハ、そしてベートーヴェンの人と音楽	
12	フランスの音楽	近代フランス音楽の響き	
13	ロシアの音楽	ロシア民謡、バレエ音楽	
14	日本の音楽、アジアの音楽	日本の伝統音楽、民謡、愛唱歌などを通して、又、他の国々との比較において、自分の国の文化を再認識する。	
15	その他の国々の音楽	アメリカ、スペイン、ハンガリー、ブルガリア、チェコ、ポーランド、イギリス等の音楽	

教科書	特に使用しません。
参考書	講義の中で必要に応じて推薦します。

授業科目名	日本の近代文学	担当教員	杉本優
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	近代(明治以降)の小説、詩歌などから対象を選び、1回ないし2回程度で完結する進度でいろいろな作品を読んでいく。文学のさまざまな表現様態にふれると同時に、読む過程での問題意識の多様な展開をねらう。
学習到達目標	1. 時代、ジャンル、あるいは流派の違いによる読みのコードの相違を感知する。 2. 方法的な読みの意識化、深化をめざす。 3. 文学表現がはらむ人間探究の豊かな知を習得する。
関連科目	関連すると思われる教養科目：心理学 教育学 生命倫理 総合英語 医療民俗学 性別の社会科学 環境論
成績評価方法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	訳詩の方法・訳詩の魅力	コクトーの2行詩をめぐる3つの訳詩を比較検討する。	
2	まど・みちお「ぞうさん」	阪田寛夫の「遠近法」を手がかりに、まどの詩表現を考える。	
3	啄木の短歌	晩年の啄木の評論や短歌作品を通して、その短歌観を理解する。	
4	啄木の短歌	(承前)	
5	(X)	題目未定、小レポートを実施する可能性もある。	
6	坂本遼を中心に	地方語で書かれた詩を読む。	
7	堀辰雄と中野重治	堀辰雄の「幼年時代」によって、彼と中野の幼年時代の意味を考える。	
8	丸山薫の世界	『物象詩集』までの彼の詩の世界を概観する。	
9	丸山薫の世界	(承前)	
10	「薔薇二曲」	北原白秋の『白金之独楽』への道程を背景に、詩表現を考える。	
11	「薔薇二曲」	(承前)	
12	詩集『音楽』を読む	詩のアラベスク、アブストラクト、アヴァンギャルド。	
13	詩集『音楽』を読む	(承前)	
14	まとめ	授業の総括(進度調整)	
15	試験		

教科書	テキストは配布プリントを原則とする。
参考書	「近代文学年表」年表の会(双文社出版) その他は、授業中に指示する。

授 業 科 目 名	生 活 学	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	人は社会生活と私生活の両方の世界を生きている。社会生活の領域のありようは私生活のありようにより大きな影響を及ぼしている。この科目では、社会生活の領域との関係を念頭におきつつ私生活の領域に軸足を置き、本当に豊かな生活とは何かを考える。
学 習 到 達 目 標	1. 私生活のありかたを社会生活のありかたと関連づけ、総合的にとらえられるようになる。 2. 生活の質（QOL）について十分な認識・知識を獲得する。 3. 自身の将来の生活について具体的に考えられるようになる。
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】・生活学 性別の社会科学 地域社会学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】・看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】・地域理学療法学 生活環境学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生活をとらえる枠組み	生活 QOL 生活を捉える枠組み	
2	行為・行動の理解	生活主体と生活行動 生活主体の生活単位	
3	生活と社会関係(1)	社会関係 社会関係の変化に影響する諸要因 個人の一生と社会関係	
4	生活と社会関係(2)	個人と地域社会との関わり 危機的できごとと家族・地域社会	
5	生活と時間(1)	生活時間とは何か ライフステージ別生活時間	
6	生活と時間(2)	生活時間調査 活動の場所と家族共有時間	
7	生活と職業労働・家事労働	職業労働 家事労働	
8	生活と空間	住空間 ライフステージと住空間 ライフスタイル	
9		と住空間 居住水準 住環境	
10	生活と経済(1)	国民経済と生活経済	
11	生活と経済(2)	家庭経済	
	生活問題と社会政策(1)	生活問題 生活問題の現代的特徴	
12	生活問題と社会政策(2)	生活問題への対応 生活保障の諸制度	
13	生活は豊かになったのか	豊かな生活とは 豊かさ QOL の構成要素 社会の豊かさの測定 豊かな生活の保障	
14	生活を設計する	ライフコースの選択 生活を設計する	
15	定期試験		

教 科 書	使用しない。プリントによる（ファイルを用意のこと）
参 考 書	「現代社会と生活」長津美代子ほか（建帛社）

授業科目名	家族学	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識技術の形成を基礎づけることを目的とする。
学習到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能、家族周期、家族境界など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	関連し合う教養科目・生活学 性別の社会科学 地域社会学 心理学 老年心理学 この科目が基盤となる専門基礎科目・発達心理学 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 人間発達学 この科目が基盤となる専門科目・地域理学療法学 生活環境学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース	
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク・夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期	
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから	
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族	
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ、	
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻	
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見	
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続	
10	家族をめぐる制度(4)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴・氏と墓 “夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案	
11	家族機能の破綻とその解決援助(1)	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス	
12	家族機能の破綻とその解決援助(2)	児童虐待への対応・予防、発見、危機介入(初期対応)、問題解決のための長期的対応	
13	家族機能の破綻とその解決援助(3)	児童虐待への対応の鍵概念・自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	
14	家族機能の破綻とその解決援助(4)	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要 総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防止法 加害者対応 高齢者虐待	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
15	定期試験	筆記試験	

教科書	プリントによる。
参考書	「21世紀家族へ【新版】」落合恵美子（有斐閣） 「系統看護学講座 別巻15 家族論・家族関係論」（医学書院）

授業科目名	地域社会学	担当教員	伊藤亜都子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	我々の生活にとって地域社会とのかかわりは不可欠である。地域社会に関する基本的な知識を学びながら、現代社会で起こっている環境、家族、教育、福祉、防災などの問題について地域社会が果たせる役割を理解することを目的とする。講義を通して、地域社会において現在起こっている社会問題、自分の身近な地域などに対して関心をもつこと、理解を深める。
学習到達目標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	関連し合う教養科目 ・ 老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 ・ 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 ・ 地域理学療法学 生活環境学
成績評価方法	講義時間内に、何度か小レポートを行う。また、それぞれが地域社会について考えを持つことを期待しているため、グループごとに意見を出し合うワークショップを行う場合もある。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティの基本的知識	
2	地域社会学の概論(2)	戦後日本における「地域コミュニティ」の歴史	
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
6	自分の地域について考える(1)	阪神大震災の映画から学ぶ「住む」ことの意味	
7	自分の地域について考える(2)	阪神大震災の映画から学ぶ「住む」ことの意味	
8	自分の地域について考える(3)	人間の生活にとって地域社会とは?(ワークショップ形式を予定)	
9	自分の地域について考える(4)	人間の生活にとって地域社会とは?(ワークショップ形式を予定)	
10	地域社会で活動する担い手(1)	住民主体論:地域社会で活動する人々や組織について	
11	地域社会で活動する担い手(2)	地域社会における代表的な組織としての自治会	
12	地域社会で活動する担い手(3)	地域社会で活動するボランティア・アソシエーション	
13	地域社会で活動する担い手(4)	地域社会における人々の個人的なつきあいであるパーソナル・ネットワークについて	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
14	地域コミュニティの担い手(5)	ボランティア・NPOの可能性について	
15	定期試験	筆記試験	

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「コミュニティ論」倉沢進 ((財)放送大学教育振興会) 1998 「町内会と地域集団」 倉沢・秋元編 (ミネルヴァ書房) 1990

授業科目名	ボランティア活動論	担当教員	宮地由高
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	2 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	少子高齢化が進み、住民ニーズが多様化した 21 世紀はボランティア・NPO の時代といわれている。ボランティア活動や NPO についての正しい理解と知識を習得させ、地域社会の一員としての自覚とボランティア活動への参加を促すことを目的とする。
学習到達目標	1. ボランティア・NPO についての基本的な概念を習得する。 2. 障害者やノーマライゼーションについての基本的な概念を習得する。 3. 新たなボランティア・NPO の動きを理解し、今後必要と思われる活動や事業を具体的に考えられるようになる。 4. ボランティア活動を実践する。
関連科目	
成績評価方法	定期試験に出席状況、平常点を加味し、実際にボランティア活動を実践したかどうかによって評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ボランティア実践論	講師の 40 年のボランティア体験を講義する	
2	NPO 実践論	講師の 10 年の NPO 運営の実際を講義する	
3	ノーマライゼーション実践論	ノーマライゼーションの実践事例を紹介	
4	障害者実践論	重度障害者を講師に招いて講義をする	
5	NPO の誕生 (1)	ボランティアの二つの潮流 ボランティアと NPO	
6	NPO の誕生 (2)	非営利セクターを考える 日本型 NPO	
7	福祉とボランティアの思想 (1)	福祉の原点 福祉と権利 福祉思想のボランティアへの浸透	
8	福祉とボランティアの思想 (2)	ボランティアの自立 ボランティア・民主主義・福祉市民活動	
9	NPO のマネジメント (1)	なぜマネジメントが必要か 実践的マネジメント論	
10	NPO のマネジメント (2)	NPO の組織 運営、資金調達	
11	NPO のマネジメント (3)	介護保険と NPO のマネジメント NPO のネットワーク	
12	災害ボランティア実践論	阪神淡路大震災 日本海重油回収 新潟三条水害 新潟県中越地震	
13	NPO 実践事例 (1)	福祉系 NPO 法人運営事例	
14	NPO 実践事例 (2)	環境系 NPO 法人運営事例	
15	定期試験	筆記試験及びボランティア活動体験レポート提出	

教科書	「ボランティアの時代」 田中尚輝 (岩波書店)
参考書	

授業科目名	医療民俗学	担当教員	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	後期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生や死に際して行われる儀礼や慣行は、日本人の伝統的生命観に基づいたものであり、これに対する十分な知識と理解がこれからの新しい医療文化のあり方を考える上で重要となる。本授業では日本人の伝統的生命観の概要を学ぶことを目的とする。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康・清潔の歴史と文化を学ぶ。 (3) 死の民俗に関する儀礼と慣行を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理 家族学
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法学士
1 2 3 4 5 6	(1) 誕生民俗と生命観	丙午俗信と出産行動 胎児の生命(産死の身二つ慣行の分析) 産着と魔除け(赤子を守るマーク) 名付けの諸相(悪名と仮り名の習俗) 双子観の変容 いのちの保護(産婆の技術と呪術)	
7 8 9 10	(2) 病気・健康と医療	病気とまじない(呪術の現在性) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と伝統的習俗の関わり) 長寿と厄年(長寿銭と長寿観)	
11 12 13 14 15	(3) 死者儀礼と死後の世界	看取りと臨終(介護の問題と家族) 死の判定とタマヨビ あの世とこの世(死者儀礼と現代社会) 供養と慰霊(戦没者慰霊と甲い上げ習俗)	

教科書	「いのちの文化人類学」波平恵美子(新潮社) プリントも使用する。
参考書	「冠婚葬祭」宮田登(岩波新書)

授業科目名	法 学	担当教員	斎 藤 周
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	「法」というと「難しいもの、面倒なもの、私たちに関係ないもの」といった印象を持っている人が多いのではないだろうか。でも、実は、「法」は身近なものであり、私たちを守ってくれるし、私たちが幸せになるために使えるものでもある。そこでこの科目では、基本的人権・平和・民主主義といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長すること、あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつけることを目標とする。
関 連 科 目	[他の教養科目で関連の深そうなもの] 経済学、国際関係論、性別の社会科学、家族学、教育学
成 績 評 価 方 法	定期試験。レポートを課すこともある。 出席状況によっては、成績評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論	法とは何か、憲法とは何か	
2	人権	人身の自由(刑罰と人権)	
3	人権	表現の自由	
4	人権	信教の自由	
5	人権	教育と人権	
6	人権	家族と人権	
7	人権	平等	
8	民主主義	民主政治と独裁政治	
9	民主主義	国民主権と象徴天皇制	
10	平和	日本がした戦争	
11	平和	軍隊は必要か	
12	平和	戦争をするアメリカ	
13	平和	どのように平和を実現するか	
14	まとめ	法とは何か、憲法とは何か	
15	定期試験		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	「新版 主権者はきみだ」森英樹(岩波書店 岩波ジュニア新書)

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	武 井 昭
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	今日においては「お金」なしには生きていけない。「お金」を安定して稼ぐには、今日の「経済」の仕組みを正しく認識することが不可欠である。今後急速に進展する「少子・高齢社会」の中でこのことを実現することは容易ではないが、本講義では、「少子・高齢社会」の到来とこれまでの「経済」の関係を可能な限り体系的具体的に捉えることを通じて、フリーター・ニート、年金、医療、介護など今日直面する諸問題の克服の可能性を考査する。
学 習 到 達 目 標	自分なりに理解したことをスタディし文書で表現すること。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	レポート（400字詰め原稿用紙15枚以上）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	今日の「経済」は「工業経済」がその価値の中心を形成し、その価値づけについては「市場」(マーケット)で行うということが中核をなしているために、「お金」での評価の比重が大きくなる。それにつれて、このこととこれ以外の社会的な事柄との関係において軋轢が生じ、社会経済問題となる。こうした視点から講義を展開する。	
2	経済と社会の関係		
3			
4	工業経済と市場経済の統合		
5	経済発展と技術革新		
6	経済成長と社会保障		
7			
8	高齢化社会のメカニ		
9	ズム		
10	少子・高齢社会の到		
11	来		
12	介護・福祉・健康と		
13	労働（女性の社会 化・フリーター問題）		
14	看護・リハビリの社		
15	会経済学		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	国 際 関 係 論	担 当 教 員	藤 本 凡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	国際社会とは、対立の構造を抱えつつ相互に依存し共通する利益の追求を図ろうとする、「力」の交錯した社会である。ここでは、国家のみならず「信念」をもつ個人やその団体も行動主体となりうる。信念は、物事の本質を見極める力を持ち思考を重ねることをへてこそ揺るがないものとなるはずである。本講義では、「階層」をキーワードに、国際社会の構造、その中で機能する法や制度の成り立ち、そしてそれらの変革に関わる動きを、経済的・政治的観点から読み解いていく。国際協力に関心のある学生に対して、巨視的立場から世界の「力関係」を学び、自身の立場を考える機会を提供するものである。
学 習 到 達 目 標	1. 勢力均衡から覇権獲得競争、東西対立、南北対立へという「国際社会の構造変動」について学ぶとともに、主権国家の成立期にさかのぼって「工業化と国家の関係」に注目することで、構造変動の本質を把握する。 2. 国際協力と国際機構の関係、そしてとくに国連の機能とその舞台において繰り広げられる加盟国の政治的・経済的な「力の交錯」状況を把握することで、国際協力の枠組みの理想と現実を理解する。 3. 近代以降の国際舞台の主演、「主権国家」の変貌の可能性を、欧州連合を例に探る。 4. 可変的な国際社会の構造、そこにうごめく力関係のなかであって、個人はどのような場面・立場で国際社会に参加できるのか、またはできないのか、個人的な意見を持てるようになる。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 法学 経済学 この科目が基礎となる専門基礎科目 国際医療協力
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、レポート（1回実施）の点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	社会科学の研究 国際関係論史(1)	研究とは 情報の収集と取捨選択 大戦～1920年代の理想主義的アプローチ 例：国際法・国際機構論	
2	国際関係論史(2)	現実主義的アプローチから新たなアプローチへ 例： パワー・国益の重視 政治学の科学的研究 巨視的理論の構築	
3	国際関係と演劇 <舞台> 国際体系(1)	舞台・役者・演技・ドラマ 西欧国家体系の成立と拡大 主権国家	
4	国際体系(2)	勢力均衡から覇権国家の登場へ・覇権の推移 「極」の対立～東西対立・南北対立	
5	<演技>目的実現 のために	演技力～国力とは 演技の道具～外交交渉・制裁・ 援助・交流 外交政策の決定過程	
6	<役者/ドラマ> 外交政策の特徴(1)	イギリス（覇権国から旧覇権国へ）・アメリカ（外部 から覇権国へ）の外交政策	
7	外交政策の特徴(2)	日本（外部から非覇権中心国へ）の外交政策	
8	南北の構造対立	経済援助の思惑 発展途上国の主体的要求	
9	<舞台/役者/ドラマ> 国際社会の組織化	国際機構はなぜ必要か 国際機構の中の平等・不平等 国家・国際機構・超国家の関係	
10	国際連合	安全保障の仕組み 憲章上の仕組み 実際の運用	
11		経済協力の仕組み 平和と経済協力 発展途上国と 国連・国連ファミリー	
12	欧州連合	欧州共同体の誕生 「超国家」への試練	
13		経済統合から政治統合へ 欧州連合の拡大	
14	レポート評価と討論	個人はいかなる場面・立場で国際社会に参加できるか	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	プリントによる。
参 考 書	「国際政治経済学をめざして」川田侃（お茶の水書房） 「ポスト覇権システムと日本の選択」猪口邦子（筑摩書房） 「国際機構論」最上敏樹（東京大学出版会）ほか適宜、指示

授業科目名	性別の社会科学	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解読し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する。 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える。
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる。 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる。 3.2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる。 4.3のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる。
関連科目	【関連する教養科目】家族学 生活学 法学
成績評価方法	講義を踏まえ、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	戦後日本社会と性別(1)	データに見る「現代日本社会と性別」	
2	戦後日本社会と性別(2)	データに見る「現代日本社会と性別」(続)	
3	戦後日本社会と性別(3)	「女性」「男性」をめぐる規範	
4	戦後日本社会と性別(4)	高度経済成長期における性別分業の形成 分業の3軸、第1の性別分業：有償労働と無償労働	
5	戦後日本社会と性別(5)	高度経済成長期における性別分業の形成 第1の性別分業：社会的労働と私的労働(続き)	
6	戦後日本社会と性別(6)	高度経済成長期における性別分業の形成 第2の性別分業：産業雇用労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)	
7	戦後日本社会と性別(7)	高度経済成長期以降の性別分業 第1・第2,2つの性別分業の関係	
8	戦後日本社会と性別(8)	第3の性別分業 男性:政治/女性:政治への非関与。その根としての「家」制度	
9	性別について公正な社会へ(1)	性別秩序はなぜ問題にされるようになったか、性別秩序を越えた社会	
10	性別について公正な社会へ(2)	社会的労働と私的労働のゆくえ、能力と努力と状況対応秩序の社会への途。国・地方自治体、市場、市民それぞれができること	
11	ケアと性別(1)	ケアとは、他者のケアを役割にすること、ケアの役割化に伴うリスク	
12	ケアと性別(2)	愛とケア、ケア観の成熟、ケアの脱役割化	
13	摂食障害と女性	「摂食障害と女性」を結ぶ2系統の社会的次元の説明	
14	女性に対する暴力	「女性に対する暴力」とは何か、「女性に対する暴力」の諸形態、撤廃の方途	
15		定期試験	

教科書	プリントによる(プリント保存用のファイルを用意すること)。
参考書	「女性のデータブック 第4版」井上輝子、江原由美子他編(有斐閣)2004 「男女共同参画白書 2004年度版」内閣府(財務省印刷局)2004

授業科目名	環 境 論	担 当 教 員	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 生活環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 4 循環型社会、持続可能社会への認識
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	レポート（前期終了時実施予定）、定期試験（後期終了時実施予定）を重視する。 出席状況、平常点を参考とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち	
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源	
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷	
5	典型七公害()	水質汚濁、土壌汚染	
6	典型七公害()	大気汚染、悪臭	
7	典型七公害()	騒音、震動、地盤沈下	
8	四大公害	水俣病、イタイタイ病	
9	生活環境問題まとめ	公害対策の歴史、法制度	
10	オゾン層破壊()	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し	
11	オゾン層破壊()	対策、ウィーン条約モントリオール議定書	
12	地球温暖化()	温室効果ガス	
13	地球温暖化()	気候変動の状況と見通し	
14	地球温暖化()	対策、気候変動枠組条約京都議定書	
15	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成	
16	生物の多様性など	生物多様性、砂漠化、海洋汚染、熱帯雨林	
17	地球環境問題まとめ	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任	
18	エネルギー問題()	日本の1次エネルギー現状	
19	エネルギー問題()	再生可能エネルギー、自然エネルギー	
20	エネルギー問題()	エネルギー利用効率、コジェネレーション	
21	廃棄物問題()	一般廃棄物、産業廃棄物	
22	廃棄物問題()	医療廃棄物、感染性廃棄物、特定管理廃棄物	
23	廃棄物問題()	廃棄物処理の過程	
24	食品の安全性()	食料生産の現状、窒素循環	
25	食品の安全性()	フードマイレージ、検疫薫蒸	
26	食品の安全性()	ダイオキシン、環境ホルモン	
27	難分解性汚染物質	有機塩素化合物、POPs、生物濃縮	
28	循環型社会	3R、熱回収、適正処分	
29	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり	
30	定期試験	筆記試験	

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	情報処理	担当教員	松田芳健
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習
科目の目的	情報化社会の進展により、保健医療職者にコンピュータと情報処理の知識・技術は不可欠となっている。この科目は、コンピュータを用いた情報処理の方法と基礎的な技能を演習しながら体得していくことを目的とする。
学習到達目標	Word Excel を使用した文書作成・編集、計算機能の基礎技能の習得する。 グラフ作成、検索等データ処理の基礎的な手法とその理解する。 プレゼンテーションの方法と効果的活用の理解する。
関連科目	情報学
成績評価方法	出席状況、課題提出、平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	概説・基本操作	講義の内容説明、コンピュータの基本操作	
2	入力・データ保存	文字入力、ファイル操作、ファイル管理	
3	文書作成(1)	文書の構成、基本	
4	文書作成(2)	Word の機能	
5	文書作成(3)	図表の作成、活用	
6	文書作成(4)	文書管理、文書の活用	
7	表計算(1)	データ入力、計算	
8	表計算(2)	関数の利用・算術関数、統計関数	
9	表計算(3)	関数の利用・論理関数	
10	表計算(4)	グラフ機能・作成、加工	
11	表計算(5)	ワークシート・ブックの活用	
12	表計算(6)	データベース機能	
13	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションソフトの操作	
14	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションの作成	
15	まとめの課題	演習問題	

教科書	プリントによる(ファイル等での配布を予定)。
参考書	

授 業 科 目 名	情 報 学	担 当 教 員	松 田 芳 健
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義(演習含む)
科 目 の 目 的	高度情報化社会を迎え、保健医療職者にコンピュータと情報処理の知識・技術は不可欠である。現代の情報システムは、いくつかの表現方法で表された情報が統合され、分類、検索、ネットワークなどの理論に基づいて構築されている。この科目では、コンピュータのしくみ、コンピュータの機能、情報表現、情報の分類整理、情報検索、ネットワークなどを概観し、情報システムについて理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	コンピュータおよび通信ネットワークに関する基礎的な知識を習得する。 情報処理とネットワークに接続して利用するコンピュータの成り立ちを知り、自ら利用するため情報技術の基礎を理解する。
関 連 科 目	情報処理
成 績 評 価 方 法	課題提出、出席状況、平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概説	講義内容の説明・情報化社会について	
2	情報処理とは	情報とは、処理とは、情報技術の役割	
3	コンピュータ	コンピュータの歴史と情報技術の発展・展開	
4	情報表現(1)	デジタルとアナログの特徴	
5	情報表現(2)	文字、画像のデジタル表現	
6	情報の分類・検索	情報の蓄積、共有、活用	
7	情報システム(1)	情報の表現、整理の考え方	
8	情報システム(2)	コンピュータの仕組みと基本機能	
9	情報システム(3)	ファイルシステム、ユーザインターフェイス	
10	情報システム(4)	プログラム、アルゴリズム、データ構造	
11	通信	通信の仕組み	
12	ネットワーク	ネットワークの仕組みと利用	
13	インターネット	インターネットの利用と発展、課題	
14	予備日		
15	まとめの課題	筆記問題	

教 科 書	プリントによる。
参 考 書	

授業科目名	総合講座	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義、グループワーク
科目の目的	設定したテーマについて、専門の異なる複数の教員が異なる角度から論じることにより、当該テーマを多角的・多面的に考察することを目的とする。本年度のテーマを「ライフワークと私」とし、学生が役割モデルを見出し、また、自身の人生を考える契機としたい。
学習到達目標	各自の職業人、社会人としての将来像をより具体的に考えられるようになる。
関連科目	【この科目が基盤となる専門基礎科目】看護学入門 リハビリテーション概論 【この科目が基盤となる専門科目】理学療法概論
成績評価方法	講義を踏まえたグループワークの成果物および個人のレポートに出席点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション ジェンダー研究	異なる分野の研究・教育・実践をライフワークとする教員が、自身とライフワークを語るオムニバス形式の講座である。本講座にはコーディネイターを置く。コーディネイターは、担当者間の連絡調整、講義と講義の関連づけ、講義を踏まえた学生のグループワークの運営等講座全般の運営にあたる。 総合講座の趣旨、テーマ、運営方法、期待すること等について説明する(コーディネイター 内藤和美) 専門を替え、男女共同参画社会形成関連の政策過程を中心とするジェンダー・スタディーズの研究・教育をライフワークとするようになった者として(内藤和美)	
2	精神看護学・認知症 高齢者の看護学	精神看護学、認知症高齢者の看護に関する教育・研究をライフワークとする者として(斎藤和子)	
3	理学療法学	新生児から高齢者、超早期から慢性期という幅広い臨床の実践者としての経験の後、理学療法の基礎と臨床の研究・教育をライフワークにするようになった者として(江口勝彦)	
4	地域保健学	地域で生活する精神障害者を支えるシステムづくりを中心に、地域保健の研究・教育・実践をライフワークとする者として(矢島まさえ)	
5	スポーツ科学	肥満関連ホルモンレベルに及ぼす運動の効果の研究を中心に、スポーツ科学の研究・教育・実践をライフワークとする者として(近藤照彦)	
6	国際医療協力	災害救護を含む国際医療協力の研究・教育・実践をライフワークとする者として(矢嶋和江)	
7	老年心理学	老人の行動と心理の研究・教育をライフワークとする者として(北川公路)	
8	グループワーク	各人が、保健医療専門職および関連分野の先輩である各教員の自身とライフワークの開示をどう聴いたかを論じ合い、成果を回収するためのグループワークを実施する(コーディネイター 内藤和美)	

教科書	使用しない(各教員が用意する)
参考書	

授業科目名	保健統計基礎	担当教員	石井満
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	従来、臨床現場での推定や判断は経験的・感覚的な事柄が基本となっていることが多く科学性が稀薄であり、時には主観的でさえあった。このことを是正することが必要であり、このための大きな手法が統計学に基づく科学的解析であり、この方向性が先進国の基本的傾向である。以上のことに基づき、臨床データの分析方法を理解し、応用することを目的とする。
学習到達目標	臨床データの分析目的とそれに対応する各方法を理解し、的確に応用できるようになること。このために、可能な限り多種類の臨床データを例題として配布するとともに理論補強のプリントを随時大量に配布する。平方根(ルート)の付いている電卓を用意すること。
関連科目	全ての専門科目
成績評価方法	出席状況、レポート、定期試験等を総合的に評価する。(出席重視)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	統計学とは資料(データ)の整理	統計学の概要と、臨床例を用いてその必要性を述べる。 平均、限られた範囲での平均、分散、標準偏差、度数分布、相関の各意味と応用	
6	正規分布	正規分布の誘導と応用	
9	標本と標本分布	標本と標本抽出。平均 \bar{x} や二項、カイ2乗、t、Fの各分布	
11	推定理論	点推定、真の値の(平均値、分散等の)区間推定	
16	検定理論	理論の構造、t検定、F検定	
20	クロス集計とカイ2乗検定	クロス集計とその応用、独立性および適合度検定	
23	回帰分析	回帰分析、相関分析、分散分析表、重回帰分析	
26	調査と質的データ	数値で表せないデータ(質的データ) 数量化 類・類・類	
30	期末試験(別に、前期中にテストをすることもあろう。)		

教科書	「やさしい医療系の統計学」佐藤敏雄、村松宰 著(医歯薬出版)
参考書	「データのまとめ方使い方」中元藤茂他(医歯薬出版) 「統計技術とその理論」石井満(森北出版)、他 講義時に紹介する。

授業科目名	生物学基礎	担当教員	柴田雅祥
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	遺伝子治療、オーダーメイド医療など分子生物学的手法に基づいた治療、また fMRI など画像技術を用いた脳の機能局在の詳細な解明など、近年の医学、医療分野の進歩には目覚ましいものがある。また、そのような技術を用いた高齢化問題に付随する老化、生活習慣病の研究なども数多くなされている。医学、医療に携わるものはこれらの理解が必要であり、そのためには根本となる生物学の知識が必須である。本科目では高校で生物を学んでこなかったものを対象とし、専門的分野の学習の基礎となる生物学知識(特に生物学的観点からみた人間についての知識)を習得することを目的とする。
学習到達目標	1. DNA など遺伝現象の基礎知識の習得、及びそれを応用した遺伝子診断などについて理解。 2. 神経、脳の機能についての理解。 3. 人間の恒常性についての知識の習得、老化現象の理解。
関連科目	関連し合う教養科目・生命科学 生命倫理 この科目が基盤となる専門基礎科目・生化学 生理学 生理学実習 運動生理学 病理学 栄養学 内科学 神経内科学 ・ 老年医学 免疫・感染症学
成績評価方法	中間試験、最終試験の合計にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	イントロダクション	本講義の目的, 進め方, 目標等の説明	
2	遺伝現象(1)	遺伝子 DNA について	
3	遺伝現象(2)	ヒトゲノム解析と医学, 医療分野での応用	
4	遺伝現象(3)	遺伝子からみた男女の違い	
5	遺伝現象(4)	クローン技術と医学, 医療分野での応用	
6	脳(1)	脳の機能局在	
7	脳(2)	脳波, 脳内物質の基礎	
8	中間試験	筆記試験	
9	病気	ウイルスと病気の関係	
10	栄養	食物に含まれる栄養成分とその役割	
11	恒常性	体内環境を一定に保つ仕組み	
12	老化	老化による生物学的変化	
13	進化	生命の起源とヒトの出現	
14	環境問題	人間の営みが環境に与える影響	
15	最終試験	筆記試験	

教科書	「好きになる人間生物学」吉田邦久(講談社) 上記に加え随時プリントを配布する。
参考書	指定なし。

授業科目名	化学基礎	担当教員	吉 國 忠 亜
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	講義は板書および OHP を使って開示し、幾度か簡単な示唆実験と合成実験を演示する。
科目の目的	化学の歴史は古くから基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校で化学を学ばなかった学生に対しても、看護学、理学療法の学習に必要な化学の基本を学ぶ。
学習到達目標	化学の領域は密接に医学と結びついているので、化学を知ることにより、看護学や理学療法の治療・処置・治験を深く理解できる。高校の化学教科書に記載の一般的知識を土台にして、その分野の真髄を深く追求する。
関連科目	高校の化学教科書が理解できるような一般的な化学全般を科目とするが、更に生化学、放射化学、天然物化学も含めている。
成績評価方法	講義毎に行なう小テストと出席点および学期末定期テストを加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	物質の構成	周期表、原子、水素、同位体、放射能 種類；イオン、配位、共有、金属、水素 パーセント濃度、モル、規定度、アボガドロ数、 三態、化学平衡、分子軌道、同素体 状態方程式、昇華、加熱組成曲線 水、溶媒和、組成曲線、酸解離定数、 反応次数、活性化熱、ボルン・ハーバー 中和反応、PH、指示薬、緩衝液、 酸化数、形式電荷、酸化還元剤 典型元素、ハロゲン、酸素、 構造、反応、伝導度、アルカリ土類、遷移 異性体、立体、不斉、アミノ酸、核酸、ビタミン アルカン、エチレン、アセチレン アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル ベンゼン、複素環、ステロイド	(極超短波)
2	化学結合		(呼吸機能)
3	物質の量		
4	物質の状態変化		
5	気体の性質		
6	溶液の性質		
7	化学反応と熱		
8	酸と塩基の反応		
9	酸化還元反応		
10	非金属元素と周期表		
11	金属元素の性質		
12	有機化合物の構造		
13	脂肪族炭化水素		
14	脂肪族酸化化合物		
15	芳香族化合物		

教科書	
参考書	

授業科目名	物理学基礎	担当教員	横井利男
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	演示実験・講義
科目の目的	看護や理学療法には、熱、温度、力、運動など物理学の知識が必要である。また、最新の医療機器には原子構造や量子論など最先端の物理学の成果を活用しているものが少なくない。 この科目は、高等学校で物理、理数物理を履修していない学生を想定して、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学習到達目標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象については、数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関連科目	運動学 物理療法学
成績評価方法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	力学	・運動と力 (運動・速度と加速度・重力の加速度)	
2		・エネルギー (運動エネルギーと位置エネルギー)	
3		・円運動 (円運動と単振動・万有引力による運動)	
4			
5	熱力学	・熱エネルギー (熱と温度・エネルギーの変換)	
6		・原子、分子の運動 (物質の三態・分子の運動と圧力)	
7	波	・いろいろな波	
8		・音と光 (音の伝わり方・音の干渉と共鳴・光の伝わり方 光の回折と干渉)	
9	電磁気学	・電界と磁界 (電荷と電界・電流による磁界)	
10		・電磁誘導	
11		・電磁波	
12	現代物理学入門	・原子の構造(電子の軌道とスペクトル)	
13		・量子論	
14		・固体の性質(半導体)	
15	定期試験	筆記試験	

教科書	プリントによる
参考書	「基礎からの物理学」原 康夫(学術図書出版社)

授業科目名	英 語 基 礎	担当教員	杉 田 雅 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。
科 目 の 目 的	これからの英語学習についていけるよう、今までに学習してきた英語の基本事項の復習を目的とする。
学 習 到 達 目 標	基本的文法力をしっかりと身につけること、正確な発音ができるようになること、英和辞書を活用できるようになること。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	出席状況・授業への参加度・平常試験・期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	動詞の現在形	Unit 1, 2 : be 動詞と一般動詞の現在形の復習	
3	疑問文	Unit 3 : 様々な疑問文の作り方の復習	
4	動詞の過去形	Unit 4, 5 : be 動詞と一般動詞の過去形の復習	
5	特殊な文、未来形	Unit 6, 7 : 命令文、感嘆文、未来を表す文の作り方の復習	
6	進行形、助動詞	Unit 8, 9 : 様々な進行形、助動詞を含んだ文の意味と作り方の復習	
7	Review	Unit 1~9 の復習	
8	英文の型、受動態	Unit 10, 11 : 5 つの文型, 受動態の作り方の復習	
9	比較、完了形	Unit 12, 13 : 様々な比較を表す文、完了形の作り方と完了形の表す意味の復習	
10	不定詞	Unit 14 : 不定詞の用法の復習	
11	分詞、動名詞	Unit 15, 16 : 分詞の用法、動名詞の働きの復習	
12	節	Unit 17 : 節とは何かとその働きの復習	
13	関係代名詞	Unit 18 : 関係代名詞の格、使い方の復習	
14	熟語、it の用法	Unit 19, 20 : 基本的な熟語を含む文の暗記、it の様々な用法の復習	
15	Examination	期末試験	

教 科 書	「First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門」 大坂四郎 著 (南雲堂)
参 考 書	英和辞書

授業科目名	解剖学	担当教員	石川 春市 律郎 見知 市郎
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法を学ぶための最も基本的な知識である人体の構造を学ぶ。各器官系ごとに骨格系、筋系、脈管系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に分け、それぞれ関連づけながら学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、理学療法を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	生理学 運動生理学 各臨床科目
成績評価方法	中間試験と定期試験で評価する。 解剖学見学実習に参加することを単位認定の条件とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。器官系	-1.解剖学
2	組織学概説	組織とその分類	A 総論
3	骨格系 1	骨総論	a 定義、目的、分類
4	骨格系 2	頭部の骨	b 細胞と組織
5	骨格系 3	脊柱、胸郭	C 形態発生
6	骨格系 4	上肢の骨格、下肢の骨格	B 骨格系
7	筋系 1	筋総論、頭頸部の筋	a 骨の構造と分類
8	筋系 2	胸腹部の筋	b 関節の構造と分類
9	筋系 3	上肢の筋、下肢の筋	C 各部の骨、靭帯、間接
10	脈管系 1	脈管総論、心臓	C 筋系
11	脈管系 2	動脈系	a 筋の構造と形態、作用
12	脈管系 3	静脈系、胎生期の循環系	b 各部の筋、腱
13	脈管系 4	リンパ系、脾臓、胸腺、血液、血球	D 神経系
14	消化器系 1	総論、口腔	a 中枢神経系
15	消化器系 2	咽頭、食道、胃	b 末梢神経系
16	消化器系 3	小腸、大腸	E 脈管系
17	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓	a 心臓
18	呼吸器系 1	総論、鼻腔、副鼻腔、喉頭	b 動脈系
19	呼吸器系 2	気管、気管支、肺	C 静脈系
20	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道	d リンパ系
21	生殖器系 1	男性生殖器	F 内蔵諸器官
22	生殖器系 2	女性生殖器	a 消火器
23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	b 呼吸器
24	神経系 1	総論、中枢神経系(脊髄、延髄、橋、小脳、中脳)	C 泌尿・生殖器
25	神経系 2	中枢神経系(間脳、大脳、脳の血管、脳室、脳脊髄膜)	d 内分泌腺
26	神経系 3	末梢神経系(脳神経)	G 感覚器
27	神経系 4	末梢神経系(脊髄神経、自律神経)	
28	神経系 5	伝導路(反射路、求心性伝導路、遠心性伝導路)	
29	感覚器系 1	視覚器、平衡聴覚器	
30	感覚器系 2	皮膚	

教科書	「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂)
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎(南江堂)

授業科目名	解剖学	担当教員	石川 春市 律郎 見知市郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	骨、筋、関節などの運動器、末梢および中枢神経系、感覚器の構造の詳細を機能と関連させつつ局所解剖学的に学習する。
学習到達目標	1、上肢、下肢、体幹の運動を筋学、靭帯学、神経学、血管学を互いに関連させ、運動器としての統合機能を学び、機能障害との関連を理解する。 2、中枢神経系および感覚器の構造を機能との関連で学び、機能障害との関連を理解する。
関連科目	生理学 運動生理学 臨床各科
成績評価方法	定期試験による。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	上肢1	上肢帯、上腕	-1.解剖学 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 関節の構造と分類 c 各部の骨、靭帯、関節 C 筋系 a 筋の構造と形態、作用 b 各部の筋、腱 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系
2	上肢2	前腕、手	
3	下肢1	下肢帯、大腿	
4	下肢2	下腿、足、歩行	
5	体幹1	背部、脊椎、固有背筋	
6	体幹2	胸部、呼吸筋	
7	体幹3	腹部、腹筋	
8	頸部	頸部、前頸筋	
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋	
10	中枢神経系1	脊髄、延髄、橋、小脳	
11	中枢神経系2	中脳、間脳、終脳	
12	中枢神経系3	神経路	
13	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系	
14	演習		
15	演習		

教科書	「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂)
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎(南江堂)

授業科目名	表面解剖学と触診法	担当教員	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	演習
科目の目的	理学療法士は運動器および運動機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表面から触知できる能力であり、その修得がこの科目の目的とするところである。また、運動学と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実際に理解できるようになることも目的である。
学習到達目標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらについて名称を言うことができる。
関連科目	関連し合う科目 ・解剖学 解剖学 運動学 この科目が基礎となる科目 ・全ての専門科目
成績評価方法	実技試験および授業への出欠や実習への積極性を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	オリエンテーション	-1. 解剖学 H. 体表解剖
	足部	足部の体表解剖演習と触診実習	
2	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習	
3	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
4	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習	
5	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
6	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
7	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習	
8	頭・頸部	頭・頸部の体表解剖演習と触診実習	
9	肩甲帯	肩甲帯の体表解剖演習と触診実習	
10	肩甲帯・上腕	肩甲帯・上腕の体表解剖演習と触診実習	
11	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習	
12	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習	
13	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
14	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
15	試験	実技試験	

教科書	配付資料 「図解 脊柱の診かた」 Hoppenfeld, H 著 野島元雄監訳 (医学書院)
参考書	「解剖学図解アトラス 第5版」 Rosen, JW 横地千代 他 (医学書院) 「触診解剖アトラス 頸部・体感・上肢」 Tixa, S 著 奈良勲監訳 「触診解剖アトラス 下肢」 (医学書院)

授業科目名	生 理 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、人体解剖模型；適時配布するプリント資料
科 目 の 目 的	人体の各部分の形態と構造そしてそのはたらき（機能）を統合した学問“人体の構造と機能”として、理学療法職に必要な十分な、そして更に臨床に必要な基礎知識の修得と思考力を養い、その対象となる『人間』の理解を深めることをねらいとする。また、代表的な疾患の病態生理も適時に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	生理学では、解剖学で学んだ正常なからだの構造と形態に基づくそのはたらき（機能）について、両分野を統合したかたちで理解出来るようになることである。
関 連 科 目	栄養学 基礎理学療法学（バイタルサイン） 臨床理学療法学（外科系の術前・術後の処置、内科系の代謝疾患の理解） 病態生理学、疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 臨床検査学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命とは	細胞・組織・器官・体液	-2.生理学 A. 総論 B. 細胞生理 C. 筋生理 D. 神経生理 E. 感覚生理 F. 呼吸生理 G. 血液・循環 H. 嚥下・消化・吸収 I. 排泄 J. 内分泌 K. 栄養・代謝 L. 体温調節 M. 運動生理 N. 免疫
2	血液	血液の成分と機能/赤血球・白血球・血小板/血漿/血液凝固/血液型	
3			
4			
5			
6	呼吸	呼吸器系/呼吸器系の機能/肺機能の測定/ガス交換とガスの運搬/呼吸の調整	
7			
8	生体防御機構と免疫	生体の防御機構と免疫/生体の防御機構に働く器官と因子/免疫反応の分類/炎症とアレルギー	
9			
10	消化と吸収, 栄養と代謝	食物摂取と消化器系/消化と吸収/食欲, 栄養と代謝/生体内の物質代謝/エネルギー代謝	
11			
12			
13			
14	尿の生成と排尿	腎臓と尿の生成/腎臓の構造と機能/腎機能の測定/尿生成の調節/蓄尿と排尿	
15			
16	* Midterm Exam	第1～15回	
17	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系	
18			
19			
20	内分泌	ホルモンの一般的特徴/内分泌器官の機能	
21			
22			
23			
24	生殖, 成長・老化	生殖とは/受精・妊娠・分娩、個体の成長/更年期/老化	
25			
26			
27	感覚 皮膚と膜	感覚の一般的性質/視覚/聴覚/平衡感覚/嗅覚と味覚/体性感覚/内臓感覚/痛覚)(皮膚の機能/皮膚の腺/人体の膜の機能)	
28	体温の調節,	体温/体熱の産生と放散/体温の調節/発熱、ホメオスタシスと生体リズム	
29	運動	運動器系とは/骨・関節・筋の機能/筋収縮のしくみ/運動の調節	
30			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
	* Final Exam *		

教科書	「ナースング・グラフィカ 解剖生理学」(メディカ出版)
参考書	「入門人体解剖学」 藤田恒夫著 (南江堂)

授業科目名	運動生理学	担当教員	江口勝彦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義を中心とする。
科目の目的	<p>「運動生理学」を表す英語には「Exercise Physiology」と「Work Physiology」と二つがあるが、本講義で取り扱うのは、前者である。</p> <p>「運動生理学」の基礎は、「運動学」と「生理学」である。通常、「生理学」は、安静時を中心とした人体の正常生理学であるのに対し、運動生理学は、運動する(行っている)人体の生理学であるといえる。この分野は、ペインブリッジ「筋運動の生理」(1919)、A.V. ヒルの「ヒトの筋運動」(1927)などが始まりであろうとされているが、その後オストランドやサルティンらが確立してきたものである。本邦においても吉田章信の「運動生理学」(1916)が著され、東京大学の猪飼道夫はこの分野の牽引者として多くの弟子を育て、現在それらの弟子たちが更に多くの後輩を輩出している。</p> <p>理学療法は、英語でPhysical Therapy(主に米国を中心に)、Pysiothrapy(主に英国を中心に)と表されるが、このPhysio-とは、PhysiologyのPhysio-であり、「治療介入により生理学的作用を得るもの」と理解できる。理学療法を学ぶ上で、「生理学」がどれほど重要なものであるか理解できよう。</p> <p>「生理学」の広い領域の中でも理学療法においては、運動の制御に関する「神経生理学」となると、運動の発現や維持に関するこの「運動生理学」は大変重要な領域であり、深い理解が求められる。本講義においては、これから理学療法の専門科目を学ぶに当たって、特に必要になる「筋の運動生理学」「呼吸の運動生理学」「循環の運動生理学」「エネルギー代謝と運動生理学」を中心に、理学療法に関連づけて講義する。既修の基礎医学分野「生理学」と専門分野「理学療法評価学」「理学療法治療学」のかけ橋になることを目指している。</p>
学習到達目標	「筋の運動生理学」「呼吸の運動生理学」「循環の運動生理学」「エネルギー代謝と運動生理学」の分野について、基礎事項を理解する。到達度は、専門分野「理学療法評価学」「理学療法治療学」が理解出来るところとする。最低ラインを国家試験出題程度とする。
関連科目	解剖学 生理学 運動学 運動学実習
成績評価方法	出欠席および態度・レポート課題・筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション	本講義の目的, 学習到達度, 成績評価方法 講義スケジュール 推薦参考書の紹介 学習方法などについて	
2	運動生理学概論	運動生理学の定義 運動生理学の分類 体力	
3 ~ 6	筋の運動生理学	筋収縮とエネルギー供給系 筋線維の種類と特徴 筋収縮様式と筋力 骨格筋と神経支配 筋疲労	-2.生理学 M.運動生理 a.運動における生体の生理学的変化
7 8	呼吸の運動生理学	運動と呼吸 運動と換気調節	
9 10	循環の運動生理学	運動と中枢循環 運動と末梢循環	
11 12	エネルギー代謝と運動生理学	運動負荷とは 代謝当量(METS) エネルギー代謝測定 嫌気性代謝閾値(VO_2GET)	
13	予備日		
14	予備日		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
15	単位認定試験		

教科書	未定
参考書	<p><入門書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入門運動生理学(第2版)」勝田 茂 編著(杏林書院)2001.(¥2,200) ・「運動生理学概論」浅野勝己 編著(杏林書院)2002.(¥2,800) ・「イラスト 運動生理学」浅山正己, 彼末一之, 三木健寿 編著(東京教学社)2000.(¥2,000) ・「運動生理学入門」猪飼道夫(杏林書院)1979.(¥998)・古典的名著! ・「運動の生理学 -骨から神経まで-」神野耕太郎(南山堂)2003.(¥2,500)・呼吸・循環が抜けている。 <p><中 堅></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体力トレーニング -運動生理学的基礎と応用-」宮村実晴, 矢部京之助編集(真興交易医書出版部)1986.(¥6,800) ・「最新運動生理学 -身体パフォーマンスの科学的基礎-」宮村実晴 編集(真興交易医書出版部)1986.(¥9,600) ・「-運動・生理・生化学・栄養- 図説運動の仕組みと応用(第2版)」中野昭一 編集(医歯薬出版)1996.(¥5,200) <p><詳解・上級></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新 運動生理学(上・下)」宮村実晴 編集(真興交易医書出版部)2001.(各¥13,000)・最先端の研究成果を含む <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な生理学書(医科生理学展望;丸善, 真島の生理学;文光堂など) ・大修館書店から出ている運動生理学書など。 ・NAP から出ている運動生理学書など。 <p>価格はすべて(税別)表示。</p>

授業科目名	生 化 学	担当教員	澤 田 只 夫
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、プリントを使用
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界(生命と物質との繋がり)を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく理学療法(EBPT)」をめざし、基本的で、かつ臨床に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応(特に、運動と筋肉・骨、そしてエネルギー代謝)が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	栄養学 基礎理学療法学(バイタルサイン) 臨床理学療法学(外科系の術前・術後の処置、内科系の代謝疾患の理解) 臨床検査学(検体分析値の理解) 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 微生物学 内科学 解剖生理学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/代謝 生体で起きている化学反応	
2 3	タンパク質の性質	タンパク質の分類/タンパク質を構成しているアミノ酸はL・a・アミノ酸である/タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している/タンパク質の高次構造/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質	
4	酵素の性質と働き	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用	
5 6	生体内における糖質の代謝	糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病	
7 8	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常	
9		* Midterm Exam *	
10	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応/脱炭酸反応/尿素回路/糖新生/エネルギー代謝/分枝鎖アミノ酸の代謝/含硫アミノ酸の代謝/オキシアミノ酸の代謝/芳香族アミノ酸の代謝/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動	
	生体内における核酸の役割	核酸の所在/2種類の核酸と構造核酸はコピーされる/タンパク質を作るための核酸/いらなくなった核酸の処分/核酸の仲間/遺伝病の犯人は?/遺伝子操作のもたらす世界	
		* Final Exam *	

教 科 書	「系統看護学講座 専門基礎2 生化学」(医学書院)
参 考 書	

授業科目名	運動学	担当教員	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人の身体運動を機能・構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。
学習到達目標	1. 関節運動の原則について説明できる。 2. 体幹・肢節の関節運動を機能・構造的見方で説明できる。 3. 骨、靭帯、筋、神経組織の関節運動における役割を説明できる。 4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。
関連科目	関連し合う科目 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法学 神経系理学療法学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成績評価方法	機能解剖に関する小テスト(クイズ) .. 60% 全体についての定期試験 .. 40%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	リオエンテーション	運動学とは? 関節運動 英語専門用語	- 3. 運動学 A. 総論 a. 定義、目的 b. 力の基礎 c. 運動器の構造と機能 d. 運動の中樞神経機構 B. 四肢と体幹の運動 a. 顔面・頭部の運動 b. 上肢帯と上肢の運動 c. 下肢帯と下肢の運動 d. 体幹の運動 e. 呼吸運動
2	運動の原則	運動の法則 軸旋運動 連鎖	
3	"	生体力学 てこ 筋の収縮様式 共同運動	
4	"	バランス 支持基底面と重心	
5	骨・関節・靭帯	形態と機能 安定性と可動性	
6	機能解剖足部	足関節の形態と運動	
7	"	足部の形態と機能 筋の働き	
8	"	アーチ構造	
9	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)	
10	"	半月・靭帯の構造と機能	
11	"	筋の働き	
12	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)	
13	"	股関節の力学	
14	"	筋の働き	
15	筋の構造と機能	筋の張力 萎縮と肥大	
16	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)	
17	"	筋の働き	
18	"	呼吸運動	
19	機能解剖肩甲帯	肩甲帯の関節の構造と運動 (体幹クイズ)	
20	"	肩甲帯の運動	
21	"	筋の働き	
22	機能解剖肘関節	肘関節の形態と運動 (肩甲帯クイズ)	
23	"	筋の働き	
24	機能解剖手・指関節	手関節の携帯と機能 (肘関節クイズ)	
25	"	手指の携帯と機能	
26	"	筋の働き 手の役割	
27	感覚と中枢神経	迷路、前庭、固有感覚 (手・手指関節クイズ)	
28	"	中枢神経系の働き 反射・反応運動	
29	まとめ	まとめ	
30	定期試験	科目全体の試験	

教科書	「基礎運動学 第6班」中村隆一、他 (医師薬出版)
参考書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	担 当 教 員	志 田 俊 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習、調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科 目 の 目 的	「食は命の基本」とあるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 提出物 100%
関 連 科 目	解剖学 生化学 生理学 病理学
成 績 評 価 方 法	定期試験 提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			理学療法士	
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある		
2	栄養素の科学 2	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割		
3		・ 炭水化物について		
4		・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について		
5		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造		
6		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質		
7		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
8		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)		
9	8	・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
10	食品と献立 9	・ ミネラルについての自己学習時間とする		
11		10		・ 栄養素と食品群について 食品群の考え方 三群について 四群について 六群について
12		11		・ 栄養摂取の実践 ・ 献立作成 ・ 献立作成の条件 ・ 資料の準備
13		12		・ 献立作成用紙配布 各自献立を考える ・ 献立作成 栄養計算
14		13		・ 栄養計算調整
15		14		・ 栄養計算調整
		15	・ 献立作成の総括・反省	

教 科 書	「五訂 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	医 療 概 論	担 当 教 員	古 城 徹
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療分野に関する各講義に先立ち、幅広い知識を身につけ、今後、専門的分野を学習する上での一助とする。
学 習 到 達 目 標	最先端の医療を含めて、基本的医学知識を幅広く学習する。
関 連 科 目	老年医学 病理学等
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15		各回ごとに、「医学の歴史と考え方」「病気とは」「遺伝」「プライマリケア」「終末期医療」といったテーマを決めて、医学の現状を紹介し、あわせて基本的な知識も学習する。	

教 科 書	「医学概論」日野原重明著（医学書院）.
参 考 書	

授業科目名	病理学	担当教員	武田淳史
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	解剖学、生理学を基礎とし、正常な人体の構造と機能を学ぶ。この知識を基に、正常な人体に生じた、各種疾患について、病理形態学的立場から、その疾患について理解を深める事の出来る目を養うことを目的とする。
学習到達目標	1. 正常な細胞の構造、機能についての理解。 2. 正常解剖学、生理学を基礎とする病変についての細胞、組織学的理解。 3. 各種疾患の病因、病態生理、診断、治療についての理解。
関連科目	解剖学(総論、各論) 生理学 生化学 内科学
成績評価方法	筆記試験(中間試験40点+本試験40点)に加え、口頭試問20点による総合評価。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	病理学とは	・ 病理学について・細胞の構造と働き・代謝異常	-1.病理学概論 A. 病因論 a 内因と外因、b 細胞組織の病理学的変化 B. 退行性病変と代謝異常 a 萎縮、変性、壊死、b 代謝異常 C. 進行性病変 a 肥大と再生、b 総称治療と異物処理 D. 循環障害 E 炎症と免疫 a 炎症、b 感染と免疫 c アレルギー F 腫瘍 G. 先天異常 a 遺伝、b 奇形 H. 老化
2	修復と再生	・ 組織の修復と再生・老化	
3	循環障害	・ 充血、うっ血、虚血、梗塞	
4	炎症と免疫	・ 炎症・免疫・アレルギー・感染症	
5	腫瘍	・ 腫瘍の分類・転移・良性、悪性腫瘍	
6	遺伝と先天異常	・ 遺伝病・染色体異常・先天異常・遺伝子治療	
7	循環器各論	・ 血管と心臓の病気	
8	呼吸器各論	・ 肺の構造と働き。炎症・循環障害・閉塞性、拘束性肺疾患・肺癌	-1.人体の構造と機能 A 総論 B. 骨格系 C. 筋系 D. 神経系 E. 呼吸器系 F. 循環器系 G. 感覚器系 H. 運動器系
9	消化器各論	・ 食道、胃、腸の疾患・肝、胆、膵疾患	
10	造血期各論	・ 赤血球、白血球の異常・リンパ節の異常	
11	泌尿器各論	・ 腎臓、膀胱の病気	
12	生殖器各論	・ 女性生殖器・男性生殖器の病気	
13	神経系各論	・ 外傷・循環障害・感染症・変性疾患・腫瘍	
14	内分泌系各論	・ 視床下部・下垂体・甲状腺・副腎・膵臓疾患	
15	運動器系各論	・ 骨、軟骨、筋肉疾患	

教科書	「シンプル病理学(第四版)」笹野公伸、岡野保典、石倉浩 著(南江堂)
参考書	「系統看護学講座 専門4 病理学」坂本 惇彦 著(医学書院)

授業科目名	薬理学	担当教員	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用についても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関連科目	特になし。
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。投与経路と薬の吸収。分布，代謝，排泄。	
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬(抗てんかん薬)。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。	
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付：胃酸分泌抑制薬)。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	
5	強心薬。抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。	
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。	
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。	
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。	
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。	
11	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤。 造影剤。放射性医薬品。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤。点眼薬。輸液	ショックの原因別分類。ショックの対応と薬剤。点眼薬。輸液の目的。輸液剤。	
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬。ビタミン剤	中毒の状態。急性中毒に対する処置。解毒剤。排泄と吸着。代謝賦活薬・ビタミン剤	
14	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法。 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法。妊婦の薬物療法。老年者の薬物療法。嗜好品の薬理。薬物相互作用。	
15	薬剤の安定性：保存 および混合の問題点。 試験。	薬剤の保存。薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）。	

教科書	
参考書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」メジカルフレンド社

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	担 当 教 員	王 娜 仁
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	この講義の目標として、公衆衛生の基礎的概念、疾病予防とそのための疫学調査法などを解説し、それから、人口動態と医療・福祉とのかかわり、保健、生活環境と健康、公害と疾病、食品衛生、労働衛生と産業医学、衛生統計の考え方、福祉と社会保障などにつき論じる。授業は、特に日本で問題とされている急速な高齢化の問題を軸として、統計資料の検討や各種の事例研究を交えながら進められる。
学 習 到 達 目 標	公衆衛生学とは地域にすべての人々の健康が維持・増進を目指している。 まず、公衆衛生の対象は一個人でなく、特徴を共有する集団であることを認識し、それから、社会制度として、集団あるいは社会の活動を通して考え、更に、疾病や傷害の治療よりも予防を重視している点を習得する。
関 連 科 目	保健統計 疫学 など
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、平常点を加えて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	公衆衛生の概念図	人口と公衆衛生・人口静態、人口動態	目標： 公衆衛生の基本内容。生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方についての理解を問う 保健と医療 1 医療供給制度 2 母子保健 3 学校保健 4 成人保健 5 老人保健 6 精神保健 7 産業保健 8 感染症保健 健康と環境 1 生態学的環境 2 物理化学的環境 3 社会的環境 4 身体的、精神・心理的影響 保健医療福祉制度 リハビリテーションの進め方 リハビリテーションの諸相 関係法規など
2	環境と健康	人間と生活環境・水・廃棄物、栄養と食品衛生・・・など	
3	公衆衛生の技術	疫学の方法と因果関係の捉え方(1)疾病予防の原則、定義	
4	公衆衛生の技術	疫学調査の方法	
5	保健統計	感染性疾患の疫学と予防、非感染性疾患の疫学と予防	
6	保健統計	保健統計の基本的な考え方(1)健康指標、傷病統計	
7	労働衛生(産業保健)の動向	保健統計の基本的な考え方(2)公衆衛生における社会資源、保健医療統計情報システムの発展	
8	公衆衛生の対象と活動	職場における健康管理 労働災害と安全対策、職場における健康保持増進・・・など	
9	公衆衛生の対象と活動	高齢者、障害	
10	公衆衛生の対象と活動	学校保健、母子保健	
11	公衆衛生の法・制度・しくみ	地域と健康、保健	
12	公衆衛生の法・制度・しくみ	医療、社会福祉・制度・・・など	
13	公衆衛生の技術	健康教育 ・ 集団とコミュニティを対象とした政策立案 ・ 活動と実践評価のプロセス	
14	公衆衛生の課題と展望	情報公開、危機管理、生命倫理 ・ 看護をめぐる公衆衛生の動き ・ これからの医療と看護 ・ 社会経済の発展と公衆衛生 ・ 危機管理と生命倫理 ・ 国際化社会における公衆衛生 ・ 公衆衛生における人材育成	
15	終講試験		

教 科 書	「系統看護学講座 公衆衛生 8」(医学書院)
参 考 書	「国民衛生の動向 2004」(財団法人厚生統計協会)

授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員	松澤正
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学習到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成績評価方法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1		リハビリテーションの定義、理念	-2.リハビリテーション概論
2		リハビリテーションの歴史	A.総論
3		障害論(定義、障害の三つのレベル)	a.リハビリテーションの定義・歴史
4		障害者の実態	b.ノーマライゼーション
5		障害の心理	c.自立生活
6		リハビリテーションの流れ	d.QOL
7		リハビリテーションのチームと職種	B.障害の概念、障害レベル
8		医学的リハビリテーション(予防的、回復的、維持的)	C.障害の心理
9		リハビリテーションの定義、対象、方法)	D.リハビリテーションの進め方
10		教育的リハビリテーション	a.リハビリテーション関連職種とその役割
11		職業的リハビリテーション	b.チームアプローチ
12		社会的リハビリテーション	E.リハビリテーションの諸相
13		地域リハビリテーション	a.医学的リハビリテーション
14		寝たきり老人のリハビリテーション	b.教育的リハビリテーション
15		期末テスト	c.職業的リハビリテーション
			e.地域リハビリテーション
			F.保健医療福祉制度
			G.関係法規

教科書	プリント教材を使用する。
参考書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一(医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一(金原出版)

授業科目名	臨床心理学	担当教員	勝俣 暎 史
対象学年	第 1 学年	学期	後 期 集 中
単位数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	保健医療領域におけるサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学習到達目標	(1)保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し,(2)適切な支援のための基礎的な知識と実践力を習得すること。
関連科目	すべての科目と関連
成績評価方法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	臨床心理学とは	1. 心理学とは	2 A 基礎理論 B 正常および異常心理
2		2. 臨床心理学の定義 3. 問題行動の意味 4. 医療領域における臨床心理学的視点	
3	心理アセスメント (査定)	1. 問題行動の心理アセスメント	2 C 臨床心理検査法
4		2. 行動観察による心理アセスメント 3. 面接法による心理アセスメント 4. 心理検査によるアセスメント(1) 質問紙形式の心理検査	
5		5. 心理検査によるアセスメント(2) 作業形式および投影法による心理検査	
6	心理療法の理論と 実際	0. 心理療法とは	2 D 心理療法およびカウンセリング
7		1. 医療領域に生かせる心理療法	
8		2. カウンセリング	
9		3. 行動療法・認知行動療法	
10		4. 自律訓練法・動作法(臨床動作法)	
11		5. 芸術療法と描画法	
12		6. 回想法	
13		7. 記憶リハビリテーション(1)	
14	8. 記憶リハビリテーション(2)		
15	まとめ 試験		

教科書	「臨床心理学序説」高橋雅春・高橋依子(ナカニシヤ出版)
参考書	「コンピタンス心理学」勝俣瑛史(培風館) 「臨床心理学入門事典 現代のエスプリ別冊特集号」岡堂哲雄編(至文堂)

授業科目名	看護学入門	担当教員	千田サダ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	学問の地図を概括し、医療領域における看護の位置と性格について考えながら健康にかかわる総合科学としての意義と Vocational Education について理解する。
学習到達目標	1. 保・助・看養成所指定規則にもとづく看護学の意義を理解する。 2. 健康に関わる各職種間における看護の位置と co-medical member との関連性を理解する。 3. 理論と実践の関連性を科学的に意識づける。 4. 看護は、社会・人間・生物との普遍性にもとづく学問であり職業であることを認識する。
関連科目	全教科目
成績評価方法	1. 出席状況 2. レポート又は定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Vocation の意義	1. 生命倫理にもとづく生物体の共存 2. 社会倫理と人間の存在と個人の尊重 3. 生命(生活)援助者としての倫理 4. 職業意識と倫理	
2	総合保健医療福祉における職業の意義	1. 保健・医療・福祉分野の職種別窓口と個人の総合性 2. 治療行為と生命体の自然性に対する職種間の自・他立行為への考察 3. 身体(唯)生物と捉えることの問題	
3	「学問」の位置と「科学」への推論	1. 人間科学における総合科学の意義(学問の地図) 2. 「専門」とは何か Profession & Special	
4	理論と実践の科学(1)	1. 人間 = 生物~動物~社会~環境~心理~霊長類 2. 職業 = 細胞~化・物・数~解剖・生化~社~文化~経済~宗教 看護の実践 = 全体論の関係	
5	理論と実践の科学(2)	1. Problem Oriented System 2. Subjective, Objective, Assessment, Planning 3. Record (PONR)	
6	理論と実践の科学(3)	1. 自己看護・他者看護 生物体の本能・習性・先天的習性 2. 看護 = 癒しの技術 理論(方法・技術) 実践(研究)~理論... 3. 看護者人格 人間性、教養~実践の道具性	
7	チーム医療と総合看護	1. 各職種 Specialist 間の communication と連携 2. 看護職とは人間(個人)の健康を身体的・心理的・社会的統一体として捉えることを原点にした実践科学 3. 健康援助活動における看護師の位置、理学療法士の位置、Dr....他	
8	「健康」とは何か	1. 生物体について「丈夫」と「病気」、「不健康」と「健康」の意義を考える 2. WHO の健康憲章をもとに「健康観」を考える 3. disease, patient, life stage, normal handicap, client 心身症	
9	「人間」とは何か	1. 統一体について	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
10	「看護」の学問	2. 社会と環境にもとづく人間性 3. 基本的欲求と学習 4. 個人・個別性 > 普遍性 1. 生物としての自然的ケア・自己ケア（欲求）の本能 2. 祖先・親子への本能的伝達～理論的経験の発展 3. 学問・科学・理論の構築～法的専門性の樹立 教育的発展、危機的問題の予防	
11	養成所指定規則	1. 歴史的過程 2. 専門性の確立 3. 理論的科学的的研究の発展 4. （付）専門看護（師）制度（日本看護協会認定）	
12	養成所指定規則	1. 看護学について 2. 看護の対象にもとづく、comedical 間における看護の位置	
13	看護することの哲学（1）	1. 人間存在の意義 デカルト的人間観と全体論的比較 2. 実存・自己概念について 3. 人類の発生 唯物と唯心	
14	看護することの哲学（2）	1. 看護実践の理論・使命感 2. 専門職の使命 3. 「看護」の語源にもとづく理解	
15	看護することの哲学（3）	1. Clinical Epidemiology 2. Evidence Based Medicine	

教科書	「看護法令要覧」編集 門脇豊子 清水嘉与子 森山弘子（日本看護協会） 「看護覚え書」ナイチンゲール 訳 湯橋ます 他（現代社） 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 訳 小玉香津子 他（日本看護協会）
参考書	

授業科目名	レクリエーション論	担当教員	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (7 . 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	講義(教室)
科目の目的	レクリエーションの範囲、種類を明確にすること。治療するためのレクリエーション活動であることを明確にすること。治療的レクリエーションの種類と技法として臨床場面で使われている代表的なものを演習することである。
学習到達目標	障害に適応するレクリエーションを導入するための目的および治療的意義について理解する。 障害に適応するレクリエーションの特徴と種目について理解する。
関連科目	
成績評価方法	試験(100点)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	レクリエーションの基本理念	レクリエーションの範囲と種類	
2	治療的レクリエーション技法	集団の意義、立案と展開 レクリエーション実施と活用	
3	種目別にみたレクリエーション活動	遊技、ゲーム、スポーツ	
5	疾患・障害別にみた	脳卒中、筋ジストロフィー、パーキンソン病、 脊髄損傷、脳損傷、関節リウマチ、虚血性心疾患 失調症、脳性麻痺、肢体不自由(乳幼児) 知的障害、自閉症、重症心身障害児・者 虚弱高齢者、視覚障害、聴覚障害など	
6	治療的レクリエーション活動		
7	試験		

教科書	「レクリエーションー社会参加を促す治療的レクリエーションー 改訂第二版」(三輪書店) ¥3360
参考書	

授業科目名	災害時生活体験	担当教員	高木タカ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義及び演習(グループワーク)
科目の目的	災害が発生しライフラインが途絶した状況下で自活して行く為の、基本的な知識、技術や判断力。応用力を集団生活を通して体験する。
学習到達目標	1.日常生活の中で災害に対する準備ができる。 2.ライフラインが絶たれた時の対処法がわかる。 3.集団行動を理解しその一員として行動できる。
関連科目	教養科目 心理学 生活学 地域社会学 専門基礎科目 免疫・感染症学 看護学入門 救急法 栄養学 国際医療協力 国際医療協力 専門科目 災害看護
成績評価方法	1. 出席状況(講義及び演習) 2. レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	科目 オリエンテーション	科目の内容・学習の進め方、自己学習	
2	デイキャンプ オリエンテーション	グループワークについて デイキャンプの目的・内容・実施方法・準備	
3	デイキャンプ評価	個人・グループ評価	
4	デイキャンプ評価発表	発表	
5	講義	災害とは 災害の種類とその特色 災害に対する対処 国・県・市町村・地域	
6	講義	災害に対する対処 個人と集団 個人の生命を守る 健康を維持する 私達はそれ以外に職業上の役割がある	
7	グループワーク	個人としてまた集団として生きるために	
8	グループワーク	何が必要か。	
9	グループワーク	人間の基本的ニード・安全のニード・社会的ニードなどについてグループワークする。	
10	グループワーク	グループワーク発表	
11	グループワーク	グループワーク発表	
12	グループワーク	グループワーク発表討議まとめ	
13	災害時体験演習 オリエンテーション	災害時生活体験の目的・目標・内容・実施方法・準備	
14	準備		
15	災害時生活体験演習 評価	まとめ	
	演習第1回 デイキャンプ(1日)	入学後1ヶ月以内の土曜日	
	演習第2回 災害時体験(2泊3日)	夏期休暇中	

教科書	「看護の基本となるもの」バージニアヘンダーソン(日本看護協会出版会)
参考書	「共育キャンプ高木学校(保助看学生のための体験学習実践記録)」「(ミリオン書房) 「関東大震災」吉村昭著(文春文庫) 阪神大震災に関する資料 奥尻島の津波に関する資料 名古屋地方にける大水害 中越地震に関する資料 上記に関する週刊誌 新聞等の切り抜き等

授業科目名	理学療法概論	担当教員	浅田春美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義13コマ・演習2コマ
科目の目的	この科目では、「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域、職業倫理、学術活動など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。また、理学療法士がリハビリテーションや医療・保健・福祉の中で果たす役割や責任、理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目的とし、講義のほか施設見学や演習を実施する。
学習到達目標	1. 理学療法の定義、歴史、対象、業務、役割などの理学療法の基本を説明できる。 2. 保健・医療・福祉分野での理学療法やリハビリテーションの中での位置づけを説明できる。 3. 理学療法の技術体系や学術活動と生涯教育、倫理規定などから理学療法の全体像を理解できる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たすことができる。 5. 意見交換や見学した内容を適切に報告することができる
関連科目	関連しあう科目 リハビリテーション概論 看護学入門 作業療法概論 言語聴覚治療概論 この科目が基礎となる科目 理学療法セミナー ・ ・ 見学実習
成績評価方法	定期試験にレポート提出、平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	今後の講義予定	
2	理学療法の概念	定義・歴史・理念	- 1. 理学療法の概念 A. 定義 B. 歴史
3	理学療法の概念	対象と目的 グループワーク	- 1. 理学療法の概念 C. 理念 a. 保健・医療・福祉における理学療法の考え方
4	理学療法の概念	対象と目的 グループ報告およびまとめ	- 1. 理学療法の概念 D. 対象と目的 a. 保健・医療・福祉における理学療法 b. 障害の捉え方(障害分類)
5	理学療法の法体系	理学療法士及び作業療法士法	
6	理学療法の治療	理学療法の流れ 理学療法評価	
7	"	理学療法の技術体系 関連法規	- 4. B. 法規 a. 理学療法士及び作業療法士法 b. 関連法規
8	職域と役割	医療・保健・福祉分野における理学療法 地域理学療法	- 4. 医療専門職と倫理 A. 倫理 a. ノーマライゼーション b. インフォームド・コンセント
9	理学療法と倫理	理学療法士の倫理・哲学・適性とは グループワーク	
10	"	グループ報告およびまとめ	
11	学術活動と職能	研究・学術活動の現状 職業管理 チームワーク	- 4. C. 管理 a. 理学療法部門の管理運営 b. チームワーク
12	リハビリテーションと理学療法	リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ	
13	理学療法の実際	施設見学	
14	理学療法の実際	施設見学	
15	テスト	テスト	

教科書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲(医歯薬出版株式会社)
参考書	「理学療法概論 第4版(理学療法科学シリーズ)」理学療法科学学会編(アイベック株式会社) 「目でみるリハビリテーション医学」上田 敏(東京大学出版)

授 業 科 目 名	理 学 療 法 セ ミ ナ ー	担 当 教 員	目 黒 力
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習を中心に行う。 講義 10 コマ 学外演習 4 コマ (於 : 北毛青年の家)
科 目 の 目 的	理学療法士としての基礎を確立するために、理学療法士や医療に関わるスタッフなどから直接臨床像を 探求させ、自身の将来像を模索することを目的とする。また演習や共同作業を通して、より実践的、臨 床的な学習をする。
学 習 到 達 目 標	グループ作業などを通して円滑に個人の与えられ課題を遂行することができる。 理学療法士としての基礎的学習準備段階が確立することができる。
関 連 科 目	理学療法セミナー ~ 基礎理学療法学 理学療法概論
成 績 評 価 方 法	出席・レポート・発表報告などを総合して行う。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	宿泊研修 (1)	1泊2日の宿泊研修を通して共同作業を通してクラ スメイト、教員とのコミュニケーションの確立を目 指す	基礎理学療法学 1. 理学療法の理念 4. 医療専門職と倫理
2	宿泊研修 (2)		
3	宿泊研修 (3)		
4	宿泊研修 (4)		
5	理学療法士の基礎 1	1 ~ 10 は各教員より講義、演習などを通して 理学療法士としての基礎の確立を目的に展開する	
6	理学療法士の基礎 2		
7	理学療法士の基礎 3		
8	理学療法士の基礎 4		
9	理学療法士の基礎 5		
10	理学療法士の基礎 6		
11	理学療法士の基礎 7		
12	理学療法士の基礎 8		
13	理学療法士の基礎 9		
14	理学療法士の基礎 10		
15	発表報告	セミナーを通して学んだことなどを発表報告する	

教 科 書	使用しない
参 考 書	使用しない

授業科目名	理学療法評価学	担当教員	富田 浩
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および実習
科目の目的	理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。また、基本的事項である情報収集、問診、記録ができるようになること。
学習到達目標	理学療法評価の意義、目的、評価の過程が言える。情報収集、問診の必要項目を挙げるができる。記録方法が言える。評価時に理学療法士が配慮すべき点を挙げるができる。
関連科目	理学療法概論 運動器系理学療法評価学 神経系理学療法評価学 呼吸・循環・代謝系理学療法評価学 理学療法評価学演習
成績評価方法	筆記試験および実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	理学療法評価総論	意義・目的	<ul style="list-style-type: none"> -1. 理学療法評価の基本的理解 A. 評価の時期と進め方 a. 初期・中間・最終評価の意義・目的・手段 b. 評価の手順 -2. 理学療法の過程 D. 効果判定 a. 治療内容の妥当性 b. 目標達成の評価 -2. 理学療法の過程 A. 評価 a. 情報収集と分析 -2. 理学療法の過程 A. 評価 a. 情報収集と分析 -2. 理学療法の過程 A. 評価 b. 患者のニーズと問題点 -2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 c. 四肢長・周径測定 -2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 c. 四肢長・周径測定 -1. 理学療法評価の基本的理解 A. 評価の時期と進め方 c. 問題点の捉え方・統合と解釈 -2. 理学療法の過程 B. 治療計画 a. 治療方針 b. 目標の設定 c. 目標達成の時期 d. 治療計画の立案 -2. 理学療法の過程 C. 治療の実施 a. 治療手順の設定 b. 治療記録・報告 -2. 理学療法の過程 D. 効果判定 a. 治療内容の妥当性 b. 目標達成の評価
2	理学療法評価総論	評価の対象 (国際障害分類, 国際生活機能分類)	
3	理学療法評価総論	評価の種類・評価の過程	
4	理学療法評価総論	接遇・評価環境・評価時の注意点	
5	理学療法評価各論	情報収集 (医学的情報)	
6	理学療法評価各論	情報収集 (社会的情報)	
7	理学療法評価各論	問診	
8	理学療法評価各論	形態計測 (1)	
9	理学療法評価各論	形態計測 (2)	
10	試験	実技試験	
11	理学療法評価各論	評価の統合と解釈 (1)	
12	理学療法評価各論	評価の統合と解釈 (2)	
13	理学療法評価各論	記録方法	
14	試験	筆記試験	
15	まとめ	理学療法評価の課題	

教科書	「理学療法評価学第2版」松澤正著 (金原出版株式会社)
参考書	「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂, 柳澤健編 (協同医書出版社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修 (医学書院)